

第 22 回クラシックを楽しむ会

2015 年 6 月 21 日 (日) 18:00~21:30

歌劇「トロヴァトーレ」(ヴェルディ)

会場等： ザルツブルグ音楽祭 2014
ザルツブルグ祝祭大劇場
2014 年 8 月 15 日

楽団等： ウィーン・フィルハーモニー
管弦楽団、ウィーン国立歌劇場合唱団

指揮： ダニエレ・ガッティ

演出・美術： アルヴィス・ヘルマニス

衣装： エヴァ・デッセカー

出演： フランチェスコ・メーリ (マンリーコ)
アンナ・ネトレプコ (レオノーラ)
プラシド・ドミンゴ (ルーナ伯爵)
マリー・ニコル・ルミュー (アズチェーナ)
リッカルド・ザネッラート (フェランド)
ディアナ・ハラール (イネス)
ジェラルド・シュナイダー (ルイス)
その他



舞台は美術館。左の入口、椅子に座っているのはネトレプコ扮する学芸員



ネトレプコ(レオノーラ)

ドミンゴ(ルーナ伯爵)



メーリ(マンリーコ)

ルミュー(アズチェーナ)

出演者について

ネトレプコ、ドミンゴだけでなく、イタリア・ジェノヴァ出身**メーリ**は世界の主要歌劇場で引っ張りだこ、カナダが誇るコントラルトの歌姫**ルミュー**は 2000 年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで優勝。いずれも注目の若手である。

ヘルマニスの演出について

舞台は美術館。学芸員が古い伝説にもとづく絵画の説明をしている。その絵画を芝居で見せるという発想で、現実離れのややこしいストーリーを見事に処理。

聴きどころ

第 1 幕 フェルランドの歌う物語、レオノーラが吟遊詩人(トロヴァトーレ)に恋した経緯を歌う「穏やかな夜」、マンリーコ、レオノーラ、ルーナ伯爵の三重唱

第 2 幕 ジプシー達の鍛冶屋の合唱(別名「アンヴィル・コーラス」、老婆アズチェーナの不吉な歌「炎は燃えて」、ルーナ伯爵がレオノーラへの愛を歌う「君の微笑み」

第 3 幕 マンリーコがレオノーラに愛を誓う「ああ、美しい人」、アズチェーナが火刑にされると知らされたマンリーコが怒りを爆発「見よ、恐ろしい炎を」

第 4 幕 塔に幽閉されているマンリーコを思ってレオノーラが歌う「恋はばら色の翼に乗って」、死者の昇天を祈るミゼレーレ(舞台表のレオノーラ、舞台裏での合唱、マンリーコによる重唱)、陰惨な牢獄でマンリーコとアズチェーナが昔の思い出を歌う二重唱「我らの山へ」

第 23 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：歌劇「ランメルモールのルチア」(ドニゼッティ)

7 月 19 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

スカラ座十八番の「ルチア」をベルカントの女王デヴィーア、ブルソン、マルコ・ベルティ等豪華キャストで贅沢な舞台を楽しみましょう。1992 年ミラノ・スカラ座ライブ DVD です。8 月以降、「椿姫」など定番歌劇の他、「オテロ」、「夢遊病の女」などを予定。

あらすじ

【時と場所】

15世紀始めのスペイン。アラゴン王国およびビスカヤ（バスク地方）の山中

【登場人物】

ルーナ伯爵	アラゴンの貴族（バリトン） 先代伯爵の息子で弟は行方不明。実はマンリーコが弟だった！
レオノーラ	アラゴン王妃の美しい女官（ソプラノ）
アズチェーナ	ジプシーの老婆（メゾソプラノ） 母親は先代伯爵により呪いの罪で火炙りにされた。
マンリーコ	放浪の騎士で吟遊詩人、レオノーラとは相思相愛の仲（テノール） アズチェーナの息子として育てられる。実はルーナ伯爵の実弟。
フェルランド	ルーナ伯爵の家臣（バス）
イネス	レオノーラの侍女（ソプラノあるいはメゾソプラノ）
ルイス	マンリーコの部下（テノール）

【第1幕】「決闘」：ルーナ伯爵の居城

ルーナ伯爵の居城の一角で、警備の兵士たちにフェルランドが昔話を始める。「先代のルーナ伯爵には実は2人の息子がいた。そのうちの弟君に呪いをかけた容疑でジプシーの老婆を火刑に処したが、それと同時に弟君は行方不明となり、火刑台から子供の白骨が発見された。現伯爵はその白骨が弟であることを信じず、今でもその行方を捜している。」

場面はかわって城の庭園。美しい女官レオノーラがマンリーコを待っているところへ、これもレオノーラに想いを寄せるルーナ伯爵が登場。暗さゆえレオノーラは間違っただけでルーナに抱きついてしまう。そこにマンリーコが登場。当惑するレオノーラ、自分が愛されていないことを知り激怒するルーナ伯爵、レオノーラを救い伯爵を挑発するマンリーコによって三重唱が歌われる。伯爵とマンリーコは決闘を行うが勝負は付かない。レオノーラは気絶してしまう。

【第2幕】「ジプシーの女」：ビスカヤの山中

夜明け。ジプシーの一団が陽気に酒を酌み交わし、鍛冶の仕事に精を出している。アズチェーナは彼女の昔話をする。「母親が火刑に処せられた時、自分は伯爵の子供を誘拐して火にくべた。しかし気付いてみるとそれは自分の実の息子だった。」自分の出自を訝しく思うマンリーコだったが、アズチェーナは「お前は自分の実子だよ。伯爵に復讐してくれ。」と焚きつける。前幕の決闘でマンリーコが落命したと思い込んでいるレオノーラは修道院入りを決心する。ルーナ伯爵は彼女を誘拐しようとするが、マンリーコが阻止する。

【第3幕】「ジプシーの息子」：野营地—城の礼拝堂

アズチェーナは伯爵の軍勢に捕らえられ、マンリーコをおびき出す人質とされてしまう。マンリーコとレオノーラは教会で結婚式を挙げようとしているその最中、部下ルイスがアズチェーナ捕縛の報をもたらす。マンリーコは怒りに燃え、母の救出と伯爵への復讐を誓い、自分の軍勢を率い進軍する。

【第4幕】「処刑」：ルーナ伯爵の居城

戦いは伯爵軍の勝利に終わり、マンリーコは城の牢獄に捕われの身となる。レオノーラは伯爵に、自分の体と引換えにマンリーコの命を救うことを提案、伯爵はそれを受け入れ釈放命令を出す。レオノーラは隙を見て服毒する。レオノーラは牢獄へ赴き、マンリーコを解放しようとする。マンリーコは彼女が貞操を犠牲にしたことを非難する。レオノーラの飲んだ毒が効目を現し始め、彼女は愛するもののために死を選択した心情を訴える。ルーナ伯爵も登場、虫の息のレオノーラを見て自分が騙されたことを悟り、マンリーコの即時処刑を命令する。アズチェーナはマンリーコの処刑を確認し、伯爵に「あれはお前の弟だよ」と告げ、「母さん、復讐は成った!」と狂乱の叫び声を上げ、幕。

参考

劇作家グティエレス(1813 – 1884)

アントニオ・ガルシア・グティエレスは19世紀スペインの劇作家、サルスエラ台本作家、ロマン派詩人である。アレクサンドル・デュマ等のフランス作品もスペイン語に翻訳した。戯曲「エル・トロヴァドール」(吟遊詩人)は当時スペイン演劇史に残る成功を収めた作品で1836年にマドリードで初演された。彼はまたスペイン領事としてイタリアのジェノヴァに駐在し、ジェノヴァに実在した人物シモン・ボッカネグラを戯曲「シモン・ボッカネグラ」にした。ヴェルディは彼の戯曲をもとに歌劇「トロヴァトーレ」と歌劇「シモン・ボッカネグラ」を成功させた。

原作はレコンキスタの時代

イスラムのウマイヤ朝がイベリア半島に上陸し、弱体化していたゲルマン民族の西ゴート王国を滅ぼしたのは711年。半島北部山岳地帯に逃げた王族の残党とキリスト教徒がアストゥリアス王国を建国したのが718年。後のレオン王国、カスティーリア王国である。一方、アラゴン王国は、パンプローナに興ったナヴァラ王国がルーツ。半島の多くの住民は宗教や民族に寛容で先進的な文明をもつイスラム教徒の支配を受け入れた。同時に、イベリア半島をキリスト教徒が奪回しようとしたレコンキスタ(再征服運動)と呼ばれる戦いは1492年のグラナダ陥落まで約800年間続いた。この間、イベリア半島はイスラム教徒との戦いだけでなく、キリスト教徒の王位継承争いなど各地で内戦が絶えなかった。

原作はなぜ奇想天外か

原作は15世紀初頭のアラゴン王国の王位継承争い(1410~1412)の史実を元にしていて、ところが主役マン・リーコはスペインのトロヴァドール(吟遊詩人)。トロヴァドールが活躍したのは13世紀頃までで15世紀初頭はありえない。また重要な役アズチーナはジプシー女だが、ジプシーがイベリア半島に入ってきたのは15世紀半ば(ロマ1447年バルセロナ到達)。従ってアズチーナの母親が14世紀末に火あぶりにされたというのはいない。なお、スペインで異端審問が始まったのは15世紀末。異端審問で弾圧され、拷問、火刑の犠牲になったのは主としてユダヤ人や政敵。スペインでは魔女は異端審問の対象ではなかったし、15世紀末までジプシーは迫害されてなかった。従って原作は時代的にも奇想天外な物語と言えるかも※しれない。

※必ずしもジプシー=ロマではない。上記魔女狩り以前にも、古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代から宗教とは関係なく魔女に関する記録が存在する。



レコンキスタ時代のイベリア半島